

## 平成30年度 第5回柿崎区地域協議会 次第

日時：平成30年7月17日（火）午後6時

場所：柿崎コミュニティプラザ 305～307 会議室

### 1 開 会

### 2 会長あいさつ

### 3 会議録署名委員の指名

### 4 協議事項

(1)柿崎区地域協議会委員視察研修について

(2)懇談会について

### 5 報告事項

(1)市からの報告

・次期総合公共交通計画の策定について . . . [資料No.1、資料No.2]

### 6 その他

・第6回柿崎区地域協議会の開催について

日 時：平成30年9月18日（火）午後6時～

会 場：柿崎コミュニティプラザ 305～307 会議室

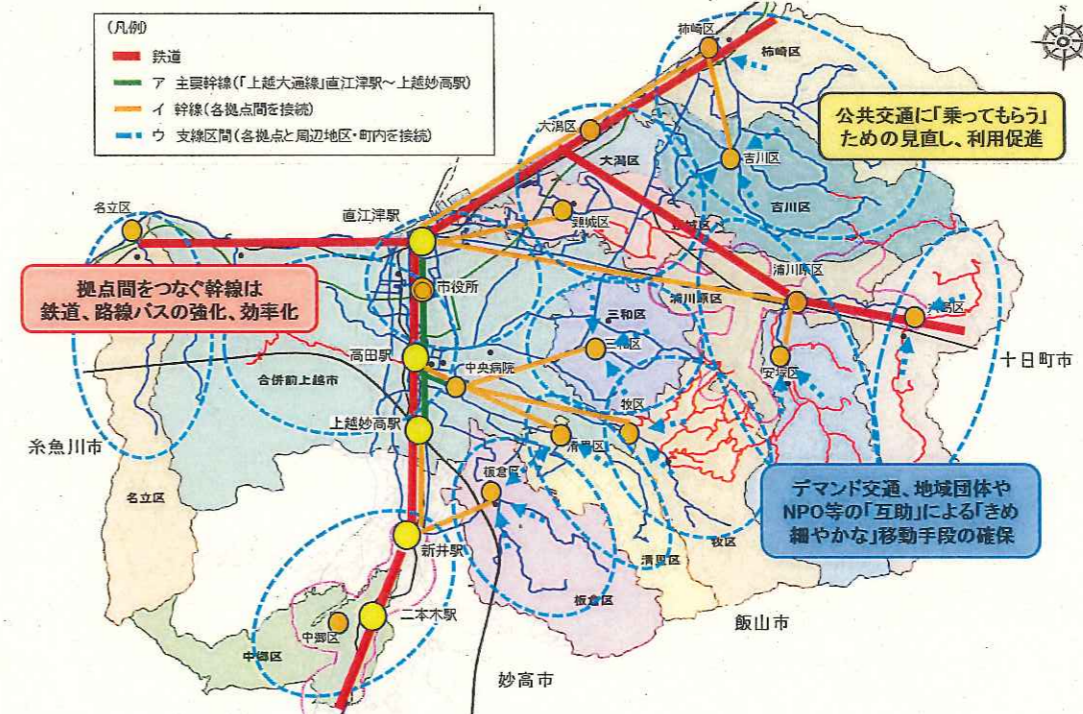
### 7 閉 会

# 次期総合公共交通計画の策定について

## 1 計画策定の目的

- ・高齢化の進行や運転免許返納者の増加に伴い、これまで以上にきめ細かな公共交通を求める機運が高まっており、住民の需要を的確に捉え、利用しやすく、「乗ってもらえる」公共交通を再構築する必要がある。
- ・一方、少子化や人口減少、自家用車の普及が進む中、公共交通の利用者は減少傾向にあり、安定的な運行を維持するための市の財政負担は年々増大していることから、将来にわたって持続可能な公共交通を確保する必要がある。

## ■公共交通ネットワークのイメージ



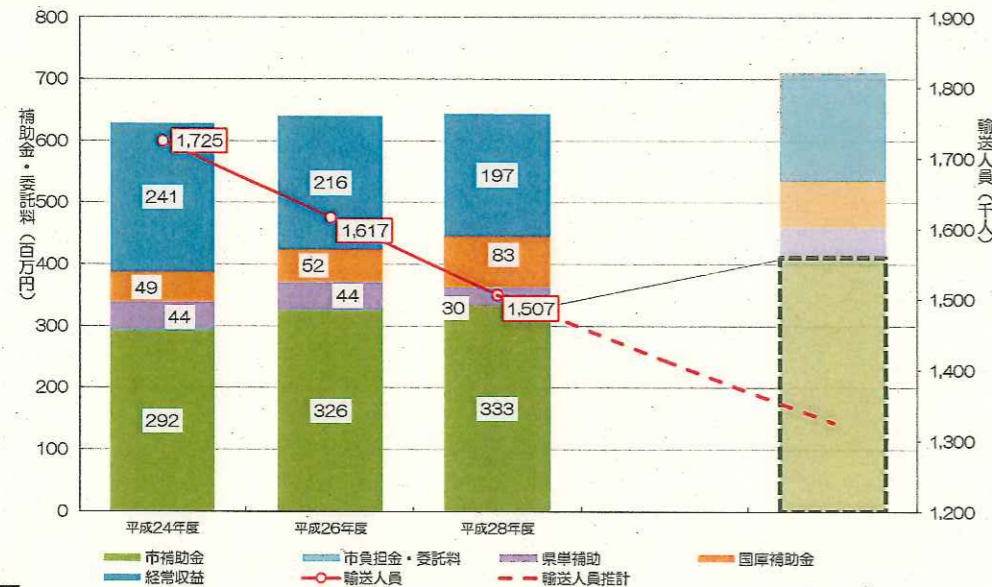
## ■支線における運行形態のイメージ

1人当たり利用頻度		利用人数/便				運行形態【市の支援】		運行本数
多い	少ない	10人以上	4~9人	2~3人	1人	定時	定時	
○	○	○				定時	路線バス【運行補助】 スクール混乗バス【市営】	多い
○			○			定時	乗合タクシー【運行補助】 自家用有償旅客運送【運行補助】 互助・自助による移送【車両維持費支援】	
	○		○			デマンド	相乗りタクシー【運賃補助 週3回】 通院・買い物タクシー【運賃補助 週1回】	少ない

## ■移動手段の例

移動手段	内容
スクール混乗バス	・小中学生のスクールバスに、一般利用者也乗車 ※当市5区で運行
乗合タクシー	・タクシーやジャンボタクシーの車両を使用し、バスのように利用者を乗り合いで輸送 ※中郷区で運行
NPO等による輸送	・公共交通がない地域において、NPO法人や町内会等が、白ナンバーの自家用車でバスを運行 ※妙高市、長岡市、魚沼市で事例あり
民間企業等が運営する循環バス	・商店街などがバス会社へ委託などによりバスを運行 ※高松市丸亀町商店街振興組合「まちバス」
互助・自助による輸送	・地域の自治会やNPO法人が、自ら運行ルートやダイヤを決め、地域の助け合いで利用者を輸送 ※新潟市「住民バス」
タクシーの運賃助成	・タクシーの運賃割引を受けることができる利用券を配付(相乗りは割引率が高い) ※前橋市で実施

## ■路線バス輸送人員並びに収入及び補助金の推移



## 2 計画の概要

- (1) 計画区域 上越市全域
- (2) 計画期間 中間見直しを含め、平成32年度から8年から10年程度を想定
- (3) 公共交通ネットワークのイメージ

- ・バス路線を、基幹となる「主要幹線」、駅と各区をつなぐ「幹線」、地域内のきめ細やかな移動手段を確保する「支線」に役割分担し、役割に応じた本数、ダイヤ等を設定
- ・従来のバスに限らず、利用頻度や人数などに応じ、より小型の車両による「乗合タクシー」や、地域住民のボランティアによる「互助・自助」による移送など、きめ細かで使いやすく、効率的な運行形態を設定
- ・公共交通の維持が困難となっている現状を共有し、住民の参加による検討

## 3 策定スケジュール

	市全体の検討	各地域における検討
～H30年 8月	・現行計画の評価、全市的な現状の把握(市民アンケート、乗降調査等)	・各地域の現状の把握(懇話会、地域の団体との意見交換等)
～H31年 2月	・地域公共交通網の見直し	・地域の再編案の検討、住民との協議等
3月	・計画の骨子完成	
～11月	・計画案の作成	・各地域の再編案の検討、合意形成
～H32年 2月	・計画案の完成、パブリックコメント	
3月	・計画の策定	

## 柿崎区の主な路線バスの状況

### 1 路線の概要

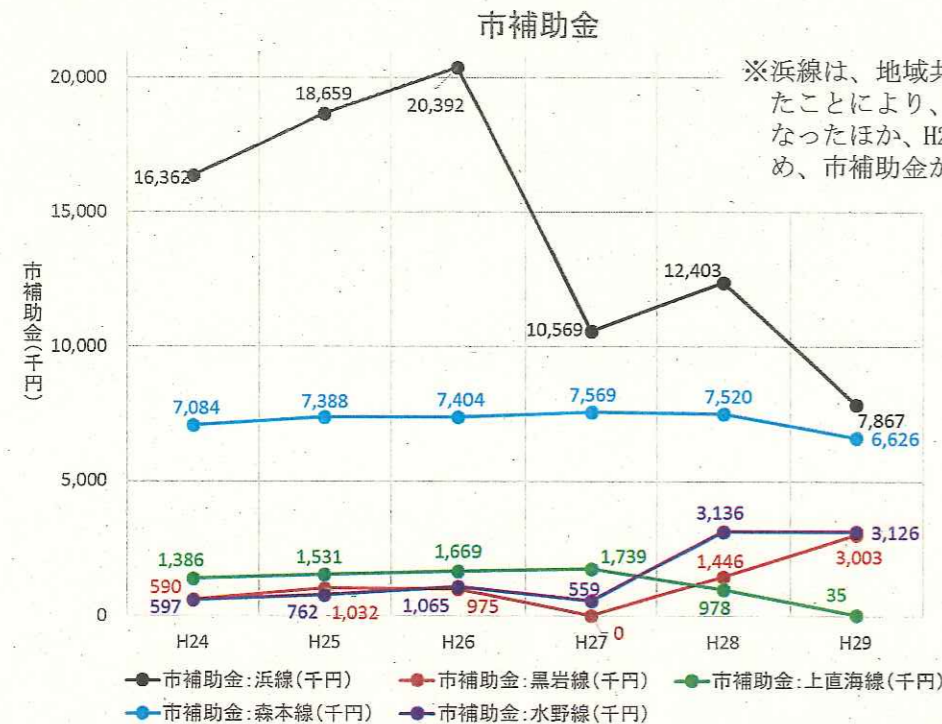
路線	運行経路	便数	
		平日	土休日
浜線	鶉の浜～柿崎病院前～柿崎バスターミナル	14	12
黒岩線	柿崎～米山寺・下灰庭～黒岩	12	0
上直海線	柿崎～上直海～柿崎	2	0
森本線	柿崎～長峰～森本	8	0
水野線	柿崎～米山寺～水野	6	0

### 2 利用者数と市補助金の推移



※浜線は、H28年10月に、柿崎～マルケバスセンターであった路線を柿崎～鶉の浜に短縮したため、H29から利用者が減少した。

●利用者数:黒岩線(人) ●利用者数:上直海線(人) ●利用者数:森本線(人) ●利用者数:水野線(人)



※浜線は、地域共同推進事業計画の認定を受けたことにより、H27～H28の国庫補助が増額となったほか、H28年10月に路線を短縮したため、市補助金が減少した。

●市補助金:浜線(千円) ●市補助金:黒岩線(千円) ●市補助金:上直海線(千円)  
●市補助金:森本線(千円) ●市補助金:水野線(千円)

### 3 収支状況

	浜線 (平日1日14便)	黒岩線 (平日1日12便)	
1便につき、	1.4人	0.9人	が利用しています。
平日1日の運行で、	約4万円	約2.8万円	の赤字が発生しています。
赤字の解消には、1便	約17人	約9人	が新たに利用する必要があります。

	上直海線 (平日1日2便)	森本線 (平日1日8便)	
1便につき、	1.7人	1.6人	が利用しています。
平日1日の運行で、	約0.3万円	約2.7万円	の赤字が発生しています。
赤字の解消には、1便	約1人	約29人	が新たに利用する必要があります。

	水野線 (平日1日6便)	
1便につき、	0.4人	が利用しています。
平日1日の運行で、	約1.3万円	の赤字が発生しています。
赤字の解消には、1便	約7人	が新たに利用する必要があります。

### 収支状況

	(千円)					
H29年度	浜線	黒岩線	上直海線	森本線	水野線	合計
収入	1,107	726	8	356	170	2,367
支出	15,058	7,584	44	6,983	3,296	32,966
欠損	▲13,952	▲6,859	▲36	▲6,627	▲3,126	▲30,599
国庫補助金	6,084	3,854	0	0	0	9,938
市補助金	7,867	3,003	35	6,626	3,126	20,657
収支率	7.3%	9.6%	18.6%	5.1%	5.2%	7.2%

### 利用者1人当たり収支状況

	(円)					
H29年度	浜線	黒岩線	上直海線	森本線	水野線	合計
収入	165	267	226	118	295	181
支出	2,247	2,787	1,215	2,304	5,722	2,523
欠損	▲2,081	▲2,521	▲989	▲2,186	▲5,427	▲2,342
国庫補助金	908	1,416	0	0	0	761
市補助金	1,174	1,104	972	2,186	5,427	1,581